



Karolinska Institutet 留学記



野村 和弘

Kazuhiro Nomura

神戸大学大学院医学研究科 内科学講座
糖尿病・内分泌・総合内科学分野 糖尿病・内分泌内科学部門

はじめに

私はJDS and EFSD Reciprocal Travel Research Fellowship Programmeのサポートをいただき、2018年8月からスウェーデン・Karolinska Institutet(カロリンスカ研究所)のJuleen Zierath, Anna Krook両教授の研究室に在籍し、骨格筋の生理学に関する研究に携わっております。

本助成プログラムは2014年に開始され、糖尿病分野における共同研究の促進を目的とし、日本糖尿病学会員のヨーロッパ研究機関への派遣に対しサポートをいただけるものです。毎年数名が採択され、ヨーロッパ各地で研究に携わっております。

カロリンスカ研究所での研究生活

カロリンスカ研究所は、当時のスウェーデン国王カール13世によって1810年に設立された医科大学で、医学系の単科教育研究機関としては世界最大規模を誇ります。ストックホルム中央駅からバスで20分ほどの場所に、東西1.5 km、南北1.0 kmにわたって広がる緑溢れる広大な敷地内には、大学病院と研究所を構成する建物が多数散在しています。

カロリンスカ研究所では基礎研究から臨床研究まで多岐にわたる研究が行われ、世界の医学研究をリードする研究者を数多く輩出し、世界トップレベルの研究者が訪れてセミナーを行うこともしばしばあります。

また、ノーベル生理学・医学賞の選考委員会であるノーベル委員会が設置され、毎年10月にはここから全世界に受賞者が発表されます。アルフレッド・ノーベルの命日にあたる12月10日には授賞式が行われ、この日を含む「ノーベルウィーク」と呼ばれる1週間は、コンサートや晩餐会などの関連行事がストックホルム市内で連日開催され、国を挙げて受賞者をもてなす一大イベントとなっております。幸運にも、我々が渡欧して間もなくの2018年10月には、本席 佑・京都大学特別教授の受賞の公式記者発表の瞬間にリアルタイムで立ち会うことができ、また12月の受賞講演を生で拝聴する機会にも恵まれました。

我々の研究室は、研究所敷地内にあるBiomedicumと呼ばれる建物内にあります。この研究棟は、敷地内に散在していた研究室を集め、異なる部門間の壁をなくし、共同研究を促進させることを期待して、2018年5月から利用が開始されました。

この一角にある我々の研究室は、総勢30名程度からなる大きな研究室で、教室員の半数以上がスウェーデン人以外の外国人という国際色豊かな研究室です。

研究室を主宰するJuleen Zierath教授, Anna Krook教授は共同で研究室を運営し、主に2型糖尿病における骨格筋の生理・代謝変化や運動時の筋肉の生理学的解析を行っております。また、骨格筋生検試料を用いて、ヒトを対象とした研究でも多くの革新的な成果を発表しております。

研究室では、2週間に1度は研究室内ミーティングで